

1 研究主題

地域に根ざした学校づくりに向けた教育課程の編成・実施における取組の工夫についての情報交換を図る。

2 研究の概要

- ・ 各校とも地域の特色を生かした学校づくりを進める上で、自校の教育活動の改善に生かすため、学校評価の方法や地域とのつながりについて情報交換をする。
- ・ 次期指導要領実施に向けた教育課程編成について、各校のスムーズな編成作業に生かすための情報交換をする。

3 研究の実際

第1回部会 部会の年間計画作り

第2回部会 有効な学校評価アンケート

五泉小学校が使用している「学校評価支援システム」を紹介した。学校評価システムとは、慶應義塾大学 SFC 研究所が開発したソフトである。示された手順に従ってアンケート項目を作成する。アンケートはマークシート形式になっており、アンケート用紙を専用スキャナにかけるとマークされた番号が読み取られ数値化される。学級担任や担当が行っていた集約の時間と労力の軽減につながることを確認された。

第3回部会 地域資源の活用～情報交換～

各自が持ち寄った資料やパンフレットをもとに、自分の校区の地域素材及び素材を活用した教育活動の取組を紹介し合い、意見交換した。

- ・ 地域人材を活用し、学習を進めているが、単発的な活動になってしまっている。
- ・ 生活科、総合的な学習では各学年の学習内容がほぼ決まっており、その流れに沿って進めている現状がある。『社会に開かれた教育課程』として教育活動を推進していくには、子どもの課題、地域の課題やニーズを集約し、系統立てた教育課程の編成が必要となる。
- ・ 今後は、「実践→集約→蓄積」の過程を大切にして教育活動の質を一層高める。

第4～6回部会 次期指導要領実施に伴う教育課程編成

平成30年度実施の道徳の教科化、平成32年度実施の外国語活動等の時数増加など、次期学習指導要領実施に伴い、新しい教育課程を編成する上での課題が山積している。次期指導要領において大切になってくるのは『社会に開かれた教育課程』である。その実現に向け、新しい時代に求められる子どもたちに育む資質・能力は次の3点である。

- ・ 学びを人生や社会に生かそうとする**学びに向かう力・人間性**の涵養
- ・ 生きて働く**知識・技能**の習得
- ・ 未知の状況にも対応できる**思考力・判断力・表現力**等の育成

上記の3点は、これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力である。これらの資質・能力について、自校の『学校で育成する資質・能力』は何かを、各校で情報交換する場をもち、次年度の教育課程部会に生かす。

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 児童数の多い学校では、アンケート等集約・集計作業が学級担任や担当の大きな負担となっている。よりよいシステムを活用することも負担軽減につながる。
- ② 地域素材を活用した教育活動の開発は、地域と学校とを結ぶ架け橋になる。

(2) 課題

- ・ 教育課程編成作業の見通しを持ち、各校で育成する資質・能力を明確にし、次期指導要領実施に向けた教育課程へ位置づけていくことが重要である。